

公立大学協会

一般社団法人公立大学協会ニュースレター Vol.9/No.1

2014年5月22日発行（通刊第31号）

【発行責任者】木苗 直秀（一般社団法人公立大学協会会長／静岡県立大学長）

【編集責任者】中田 晃（一般社団法人公立大学協会事務局長）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-8 郵政福祉虎ノ門第2ビル2F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimmu@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/



公立大学は86大学となりました。

公立大学が地域に果たす役割～「第1回学長会議」「第3回副学長等協議会」を振り返って～

公立大学協会副会長／第1委員会委員長 中村 慶久(岩手県立大学長)

公立大学協会が平成26年度に掲げた3つの基本目標の中に、「地域社会と公立大学の創造的な連携をつくる」とあり、第1委員会はこれに関し、「公立大学の存在意義に関する課題」を中心に議論することになっています。

折しも文部科学省は、平成25年度から「地（知）の拠点整備事業」、いわゆる大学COC事業（以下COC）を始めました。地域の要望で自治体により設置された公立大学にとって、その役割を実証する絶好の機会として多くの関心を集めました。

本協会は、昨年10月に岩手県立大学で第1回学長会議を開催し、第1委員会の拡大会議で「公立大学の存在意義と地域の学びのデザイン」と題し、主にCOCに関して意見交換を行いました。その後の特別シンポジウム「大学／学生と地域コミュニティの協働をデザインする」でも、COCに採択された三大学からそれぞれの事業内容が詳細に報告され、それを基に学生も交えて議論を行いました。

これらの議論では、地域活動には以前から実績があり、具体的に活動する地区を設定して自治体の支援を得た周到な計画を立てたこと、学生が4年間にわたって何らかの形で参加するようにカリキュラムが組まれていること、学生が地域住民と一体となって活動するのを全学の教員が支援するように計画されていること、などが採択された理由であることが述べられました。

12月には、第3回副学長等協議会

を東京で開催し、COCに採択された大学からの事例発表の後、グループに分かれて「公立大学と自治体との連携のあり方について」と「地域における学びについて」をテーマに意見交換をして頂きました。各グループ討論のまとめから、COCであるためには、地域および自治体との平素からの連携が不可欠であること、地域での学生の学びについては、地域を知り、地域課題を考え、それを解決する力を育てる視点が重要であること、などの発言が印象に残りました。

公立大学はそれぞれの地域ならではの様々な期待を担って設置されました。しかし今回のCOC申請の経緯から見えたことは、公立大学といえども地域や自治体との連携の形は様々であり、その密度の濃さや全学的な教育体制の有無がCOCの採択要件の一つになっていることでした。

国立大学改革プランで、国立大学には「地域活性化の中核的拠点」になることが求められています。一方公立大学は、本来の使命から地域活動を熱心に行っていたにも拘わらず、今回のCOCの申請に当たり、法人化



中村慶久
(なかむら・よしひさ)

東北大学大学院工学研究科博士課程修了、東北大学教授を経て、平成21年より岩手県立大学長。専門領域は電子工学、情報記録工学。工学博士。

以降、設置団体との距離がむしろ遠くなっていると感じた大学も多かったのではないのでしょうか。

公立大学法人制度が始まって10年、公立大学がCOCとしての役割を十二分に果たすには、設置団体との関係を改めて見直し、「運営費交付金を出す・受ける」の関係だけでなく、地域課題の解決を図り、地域を担う人材を育成する地域の高等教育機関としてのあり方を、設置団体と改めて密に協議する場を設ける時期にきていると感じました。このことが、公立大学協会が今期掲げている「地域社会と公立大学の創造的な連携をつくる」の最初のドアを開けるキーであり、個々の大学の努力だけでなく、若い大学が多い本協会としても、何らかの形で後押しすることを検討する必要があると思いました。

大学COC事業に共に向き合う「設置団体」の取組みを調査 地方自治体の政策ビジョン実現のための公立大学の積極的活用に関する調査研究

平成25年度の文部科学省「先導的国立大学改革推進委託事業」を公立大学政策・評価研究センターが受託し、3月31日までに報告書を文部科学省に提出いたしました。

今、地域における公立大学の存在感が増している状況を受けて、積極的に公立大学を活用し、地域課題を解決して行こうとする取組みを始めている公立大学設置団体が増えています。

今回、こうした設置団体の新たな動向に対し、本格的にアンケート調査や訪問調査を行った初の調査となりました。報告書は380頁にわたり、公立大学の活用に関する基本的な計画から活用実績、あるいはその評価方法と新たな支援等の様子が、詳細な資料と共にまとめられています。

報告書の内容は近日中に文部科学省のホームページに掲載される予定です。

平成 25 年度学長会議が 10 月と 1 月、二度にわたり開催されました

第 1 回学長会議では、公立大学生と共に特別シンポジウムを開催（10 月 12 日 岩手県立大学）

第 1 回公立大学学長会議は、学生の震災ボランティア活動をきっかけとして生まれた公立大学の学生ネットワーク大会との同時開催となりました。

午前中、里見朋香大学振興課長による「公立大学を巡る文教施策について」で情報を共有した後、昼休憩時間を使って学生セッションに合流。参加した 58 名の学長たちは、全国の公立大学 34 大学 81 名の学生による「被災地支援と地域防災」「地域活動やボランティア活動」をテーマとし

たポスターセッションの各ブースを自由に巡回し学生と議論を深めました。

午後は、3 会場に分かれテーマ別の委員会に参加した後、特別シンポジウムで学生と合同セッション。学生からの「なぜ公立大学は地域を向かなくてはいけないのか」との質問に、「地域から題材をもらいながら教育や研究を行い、どの地域でも応用できる成果を残すのが本当の地域貢献だと考えている」等の意見が学長から聞かれるなど、活気にあふれた時間となりました。



日頃の取組みを直接アピールしたポスターセッション



学生の投票により選ばれた 4 組が堂々と壇上で発表

《プログラム》（敬称略）

10 月 12 日（土）

全体会議

○挨拶 中村慶久副会長

○報告 木苗直秀会長

○講演 「公立大学を巡る文教施策について」

文部科学省 里見朋香 大学振興課長

（ポスターセッション見学（体育館））

委員会拡大会議

第 1：公立大学の存在意義と COC

第 2：学修成果の把握と内部質保証

第 3：公立大学のガバナンス

特別シンポジウム

テーマ「大学/学生と地域コミュニティの協働をデザインする」

○学生ワークショップ成果発表

○パネルディスカッション

パネリスト：里見朋香 文科省大学振興課長

木苗直秀 静岡県立大学長

連見 孝 札幌市立大学長

伊藤忠通 奈良県立大学長

村嶋幸代 大分県立看護科学大学長

司会：中村慶久 岩手県立大学長

10 月 13 日（日）

被災地視察（宮古・釜石）（希望者のみ）

※ 第 2 回学長会議は 1 月 30 日に、文部科学省の行政説明を中心としたプログラムで 82 名の学長等が参加して開催されました。

平成 25 年度副学長等協議会が 3 回開催されました

テーマに応じた事例を持ち寄り活発に議論

大学運営の重責を担う副学長等による副学長等協議会は、今年度 3 年目となりました。公立大学の課題を政策（第 1 委員会）、教学（第 2 委員会）、経営（第 3 委員会）の 3 つに分け、それぞれの委員会が担当する重

点課題をテーマに開催されました。

副学長等は担当別にそれぞれの会に集い、大学から事例を持ち寄り、発表を行った後、その内容を受け協議を行う形式で進められました。

各プログラムは以下のとおりです。



グループディスカッションを実施（第 3 回）

● 第 1 回副学長等協議会（第 2 委員会担当）

「教育の内部質保証～授業評価を例に」

10 月 28 日（月）13:30～16:30

東京グランドホテル [出席者 76 名]

学長会議報告 清原正義 委員長

○講演

「教育における内部質保証システムとは」

国際教養大学 鈴木典比古 学長

○事例発表

発表者：県立広島大学 秋山伸隆 副学長・総合教育センター長

山梨県立大学 杉田由仁 准教授

滋賀県立大学 倉茂好匡 教育実践支援室長

○ディスカッション

司会：清原正義 委員長

登壇者：国際教養大学 鈴木典比古 学長

県立広島大学 秋山伸隆 副学長・総合教育センター長

山梨県立大学 杉田由仁 准教授

滋賀県立大学 倉茂好匡 教育実践支援室長

● 第 2 回副学長等協議会（第 3 委員会担当）

「大学ガバナンスのあり方」「職員の育成」

11 月 11 日（月）13:30～16:30

東京グランドホテル [出席者 75 名]

学長会議報告 近藤倫明 委員長

○講演

「大学改革を支えるマネジメント層が果たす役割」

筑波大学 吉武博通 大学研究センター長

○協議

司会：近藤倫明 委員長

①大学のガバナンスのあり方について

登壇者：筑波大学 吉武博通 大学研究センター長

文部科学省大学振興課 白井俊 課長補佐

岩手県立大学 中村慶久 学長

②職員の育成について

登壇者：岩手県立大学 瀬川純 副学長兼事務局長

首都大学東京 神山智行 総務部長

下関市立大学 佐々木幸則 事務局長

● 第 3 回副学長等協議会（第 1 委員会担当）

「公立大学と自治体との連携のあり方について」

「地域における学びについて」

12 月 3 日（火）13:30～16:30

メルパルク東京 [出席者 74 名]

学長会議報告 中村慶久 委員長

○講演

「COC 拠点としての公立大学への期待」

文部科学省 大学振興課 大学改革推進室

猪股志野 室長

○事例発表 大学 COC 事業の採択事例

発表者：

山梨県立大学 波木井昇 理事

富山県立大学 奥田実 キャリアセンター所長

大阪市立大学 宮野道雄 副学長

兵庫県立大学 畑正夫 地域創造企画室長

○グループ協議

①地域における学びについて

②公立大学と自治体との連携のあり方について

○まとめ 中村慶久 委員長

公立大学政策・評価研究センターを中心に質保証に関する活動を展開

調査研究の実施、大学評価ワークショップほか、多彩な活動を展開

公立大学政策・評価研究センターは、公立大学に関わる政策や質保証に関する課題を継続的に検討する組織として平成25年度から発足しています。平成25年度は、設置団体政策の課題については文部科学省の研究委託を受けて基礎的な調査研究を行い、質保証の課題に関しては「大学評価ワークショップ」を実施するなど、公立大学に関する調査研究活動を開始しました。センターは当面3年程度を目途に活動の方向性を探ることとしています。

大学評価ワークショップ（長崎県立大学）10月31日（木）

大学評価ワークショップ（名城大学）1月26日（日）・27日（月）

大学評価ワークショップは、認証評価や法人評価に活用できる外部評価の枠組みで、公立大学の運営について識見の深い評価チームによって評価を行う取組みです。

ワークショップ当日は評価チームが上記2大学を訪問し、大学からプレゼンを受けた後、大学の特色ある取組みや内部質保証の取組みについて、教職員と議論しました。ワークショップには各50名以上の教職員の

ほか、学生たちも数多く参加し、大学側からは「自大学の取組みについて、真摯に議論する本ワークショップは、外部評価としてだけでなく、学内の教職員のFDやSDとしても有効である」とのコメントをいただきました。

後日、訪問チームは、当日の議論の概要やチームからの提言を付した外部評価報告書「大学ピアレビュー」をまとめ、大学側に提供しました。



学生との活発な議論（長崎県立大学）



学生相互による学修支援活動の様子（名城大学）

第2回 高等教育改革フォーラム 12月2日（月）メルパルク東京

第3回 高等教育改革フォーラム 3月10日（月）東京グランドホテル

高等教育改革フォーラムは質保証の課題を中心に高等教育を取り巻く喫緊の課題を選び、広く大学関係者に呼びかけて開催しています。

前号で紹介した第1回に続き、第2回は「大学質保証の充実のための取組み～認証評価制度見直しの議論のなかで～」をテーマに開催しました(49大学10団体から83名が参加)。

質保証に関する大学の取組みに関する情報共有の後、第1回大学評価ワークショップに取り組んだ長崎県立大学の太田博道学長から報告がありました。

第3回は「公立大学のガバナンスのこれから」をテーマに開催しました。中央教育審議会から報告された「大学のガバナンス改革の推進について（審議まとめ）」を事務局として担当した里見朋香大学振興課長の講演を共有し、公立大学のガバナンスの方向性について参加者で議論しました。

《第2回プログラム》

- 挨拶 木苗直秀 会長
- 講演 ①質保証と教学 IR：中間支援組織の役割

- 山田礼子 同志社大学教授
- ②公立大学における認証評価の現状と課題について
浅田尚紀 公立大学政策・評価研究センター長
- ③大学評価ワークショップを受審して
太田博道 長崎県立大学長 他

○パネルディスカッション

- 登壇者：太田博道 長崎県立大学長
浅田尚紀 公立大学政策・評価研究センター長
柴田洋三郎 福岡県立大学長
森正夫 公立大学協会相談役 他
- 司 会：佐々木民夫 岩手県立大学特任教授

《第3回プログラム》

- 挨拶 近藤倫明 第3委員会委員長
- 講演 大学のガバナンス改革の推進に関わる審議まとめについて
里見朋香 文部科学省大学振興課長
- パネルディスカッション
登壇者：上杉道世 慶應義塾大学信濃町キャンパス事務長
奥野武俊 大阪府立大学長
太田博道 長崎県立大学長
- モデレーター：近藤倫明 委員長



第3回高等教育改革フォーラムパネルディスカッション

■ 連携研究員勉強会

第1回 12月2日（月）メルパルク東京
第2回 3月10日（月）協会1F貸会議室

法人評価や認証評価を担当する学内の担当者として、各大学から推薦いただいた連携研究員を対象に、平成25年度は2度の勉強会を実施しました。それぞれ41名、29名が参加し、認証評価機関から講師を招いて内部質保証について講演いただき、その後参加者同士で意見交換を行いました。今年度は、活動をより充実していく予定です。

■ 評価担当者懇談会

12月3日（火）メルパルク東京

評価実務に携わる事務担当者が、法人評価等に関する課題を共有し自由に協議する場として、40大学53名の参加のもと、開催しました。評価を巡る諸状況について、大学評価・学位授与機構から話題提供をいただいた後、グループ協議を行いました。「教職員が評価疲れを起こしている」「法人評価委員の大学に対する理解度に差がある」など、各大学の担当者が抱える評価に関する課題が協議されました。

平成 25 年度各地区協議会の開催日程及び協議議題等(敬称略)

【北海道・東北地区協議会】 議長校：釧路公立大学
10月3日(木) 釧路公立大学

○文部科学省講演

講師：田頭吉一(文部科学省大学振興課課長補佐)

○協議会

・法人評価について

・地域に根ざした活動の現状と課題について

【関東・甲信越地区協議会】 議長校：山梨県立大学

9月3日(火) 山梨県立大学

○文部科学省講演

講師：花田大作(文部科学省大学振興課公立大学係長)

○協議会

・公立大学の存在意義に関する課題について

・評価ワークショップとその開催意義について

講師：浅田尚紀(公立大学政策・評価研究センター長)

【東海・北陸地区協議会】 議長校：静岡文化芸術大学

9月24日(火) 静岡文化芸術大学

○文部科学省講演

講師：田頭吉一(文部科学省大学振興課課長補佐)

○協議会

・改正労働契約法の施行に伴う任期付教員等に係る取扱いについて

・社会連携、社会貢献の事業の成果として得られる知的財産権等の管理について

・消費税率の引き上げに伴う対応について

○セミナー・研修会

テーマ「業務の効果的な引き継ぎとは」

ファシリテータ：岡田卓哉(愛知県立大学学務課課長補佐)

【近畿地区協議会】 議長校：奈良県立大学

9月12日(木) 奈良県立大学

○文部科学省講演

講師：田頭吉一(文部科学省大学振興課課長補佐)

○協議会

・円滑な大学運営事務体制の整備について

・法人固有職員の人事交流について

・公立大学法人への個人寄附に係る所得税額控除の適用に向けた国に対する要望の必要性について

・「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)の評価について

・学生の成績評価の基準とその妥当性について

【中国・四国地区協議会】 議長校：島根県立大学

9月6日(金) 島根県立大学

○協議会

・教養教育の充実について

・学生への確実な連絡方法について

・特別な配慮が必要な学生への対応について

・留学生の受入体制の整備について

・留学生の在籍について

・独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)の奨学金活用状況について

・地域を巻き込んだ国際交流イベントについて

・外部資金獲得のための動機付けについて 他

【九州・沖縄地区協議会】 議長校：長崎県立大学

8月30日(金) 長崎県立大学

○協議会

・学長のガバナンスについて

・授業料減免等に係る自治体からの支援について

・大学独自の奨学制度について

※各協議会においては理事会から提案した以下の議題も協議されました。

■理事会提案議題

○教育の内部質保証について

○公立大学政策・評価研究センターの活動について

・連携研究員の募集

・評価ワークショップの試行等の活動

その他の協議会を報告します

事務局長等連絡協議会

11月12日(火) 東京グランドホテル

文部科学省の政策について行政説明を受けた後、静岡県立大学・深澤俊洋事務局長の進行により、全体協議を行いました。また、協議会に先立ち、リスクマネジメントについての課題勉強会を開催しました。(参加77大学82名)

教務系実務担当者協議会

10月29日(火) 東京グランドホテル

大分大学・村瀬隆彦氏による、「大学改革の中で教務実務担当者に求められる役割」の講演後、グループ協議を行いました。(参加54大学75名)

入学者選抜実務担当者協議会

10月29日(火) 東京グランドホテル

入学者選抜実務担当者協議会が開催され、全体協議とグループ協議において活発な議論が行われました。(参加65大学94名)

※当日の次第・資料はいずれも協会 Web サイトに掲載しております。

公立大学協会の主な活動の記録 (H25.10.1 ~ H26.3.31) 役職名組織名は全て日付当時

10月

2 ★組織運営部会傍聴(文科省)

3 ★北海道・東北地区協議会(釧路公立大)

12 ★第5回理事会(岩手県大)

12、13 ★第1回学長会議(岩手県大)

17 ★教育再生実行会議ヒアリング(文科省)

27 ★青森公立大学20周年記念式典出席(青森公立大)

28 ★第1回副学長等協議会(東京グランドホテル)

29 ★教務系実務担当者協議会★入学者選抜実務担当者協議会(東京グランドホテル)★組織運営部会(奥野顧問出席)(文科省)

31 ★大学評価ワークショップ(長崎県大)

11月

7 ★大学教育部会(奥野顧問、浅田相談役出席)(文科省)

8 ★高大接続特別部会(近藤副会長出席)(文科省)

11 ★第2回副学長等協議会(東京グランドホテル)

12 ★事務局長等連絡協議会(東京グランドホテル)

15 ★先導的の大学改革推進委託事業(以下、先導的の事業)訪問(北部広域市町村圏事務組合、名桜大)

19 ★組織運営部会(奥野顧問出席)(文科省)

20 ★芸術部会出席(情報芸術大)

21 ★第9回センタースタッフ会議(協会)

25 ★先導的の事業訪問(大分県、大分県大)

29 ★高大接続特別部会(近藤副会長出席)(文科省)

12月

2 ★第1回連携研究員勉強会★第2回高等教育改革フォーラム(メルパルク東京)

3 ★第3回副学長等協議会★評価担当者懇談会(メルパルク東京)

4 ★先導的の事業訪問(兵庫県、兵庫県大)

5 ★先導的の事業訪問(新見市、新見公立大)★組織運営部会(奥野顧問出席)(文科省)

10 ★先導的の事業訪問(東京都)

11 ★学生への経済的支援の在り方に関する検討会ヒアリング(柴田福岡県大学長出席)(文科省)★第1回地方自治体と公立大学に関する有識者会議(協会)

12 ★高大接続特別部会(近藤副会長出席)(三田共用会議所)★先導的の事業訪問(都留文大)

13 ★大学教育部会(奥野顧問出席)(文科省)

16 ★UMAP 日本国内委員会出席(アルカディア市ヶ谷)★公立大学法人等運営事務研究会出席(鳥取環大)

18 ★先導的の事業訪問(奈良県、奈良県大)

19 ★先導的の事業訪問(奈良医大)

24 ★大学分科会傍聴(文科省)

25 ★大学ポータル(仮称)準備委員会 WG 出席(学総センター)

1月

10 ★第5回運営会議★第6回センター運営委員会(I-site なんば)

17 ★第5回就職問題懇談会傍聴(文科省)★COC公募説明会出席(一橋講堂)

26、27 ★大学評価ワークショップ★第10回センタースタッフ会議(名桜大)

30 ★第6回理事会★第2回学長会議(東京グランドホテル)

2月

13 ★第11回センタースタッフ会議★第2回地方自治体と公立大学に関する有識者会議(協会)

19 ★高大接続特別部会(近藤副会長出席)(文科省)

20 ★UMAP 日本国内委員会出席(学総センター)

24 ★第5回職員勉強会(協会1F貸会議室)

27 ★大学ポータル(仮称)準備委員会(浅田相談役出席)(学総センター)

3月

6 ★高大接続特別部会(近藤副会長出席)(文科省)

10 ★第2回連携研究員勉強会(協会1F貸会議室)★第3回高等教育改革フォーラム(東京グランドホテル)

11 ★第2回地方自治体と公立大学に関する有識者会議(協会)

13 ★第6回職員勉強会(協会1F貸会議室)

25 ★高大接続特別部会傍聴(文科省)

27 ★UMAP 日本国内委員会出席(学総センター)

事務局より

研修職員、照屋信次氏(名桜大学)が1年間の研修を終えました。

【コメント】研修を振り返ると、公立大学協会の皆様と共に仕事をし、毎日が新しい発見で、様々なことを勉強させていただきました。また、木苗会長を初めとする会員校の皆様に出会えたことに感謝し、お礼申し上げます。